

スペインのお勧め  
**バル・レストラン**  
 Bares y restaurantes recomendables

Vol.11  
**La Brunilda Tapas**  
 ラ・ブルニルダ・タパス  
 (Sevilla / セビージャ)

スペインではここ数年、GASTROBAR(ガストロバル)と呼ばれるバル・レストランが流行している。ガストロバルとは、庶民が手ごろな金額でオリジナル高級料理を楽しめる場所であり、皮肉にも2007年頃からの世界金融危機が原因で起こった現象だという。それはまさに生き残りをかけたシェフ達の創造とも言えよう。セビージャに存在するラ・ブルニルダ・タパスはその代表例であるが、その人気より“行列のできる店”として有名である。カップル、友人同士や職場の仲間であつて気軽に寄れるバル。口コミウェブサイトでは常に上位ランクに位置するバルで、ミニマリストスタイルの雰囲気心地よく、食事とお喋りが弾む場所だ。常時メニューは店内の黒板にスペイン語にて大きく書かれているが、英語メニューもあるのでご安心を。黒板に記載していない日替わりタパスも種類が多く魅力的なので必ず給仕さんに確認することを忘れずに。ワインも豊富に揃えてあるので、食事に合うお勧めを聞いてからオーダーしよう！もちろんタパスだけではなくプレート料理もあり、シェア可能なのも嬉しい。昼も夜もオープン時から混雑するため、早めの来店がお勧め。デザートもお楽しみに♪♪



写真上: Chipirón con Migas (ほたるイカとミガス) 4.5ユーロ / 左下: Hamburguesa de Ternera & Chips (ビーフバーガーとチップス) 4.5ユーロ / 右下: 天井が高い店内は快適



田中富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフォワード、米通信機会社勤務後、2001年よりセビージャ在住。2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダルシア州立ハエン大学にてバジリク・オリーブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに。現在は、オリーブオイルコース、食品輸出仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。HP: www.creapasion.com / http://spain.fc2web.com

◆ Información

**La Brunilda Tapas** (ラ・ブルニルダ・タパス)

住所: Calle Galera, 5, SEVILLA 電話: +34 954 22 04 81  
 HP: www.brunildatapas.wordpress.com

※上記情報は、2015年5月時点のもので変更する可能性があります。



マドリッド在住15年  
 同のスペイン情報をお届けします

スペイン小橋 ③



2015年セルバンテス大調査

前回に引き続きスペイン小橋では2015年にスポットを当てますが今回の御題はセルバンテス。論を俟たない世界の文豪の一人ですが、2015年はそのセルバンテスが執筆した長編風刺小説“ドン・キホーテ”の後編が1615年に出版されてから400年目に当たります。その400年目に当たる年まで意図的に待ったのかどうかは不明ですが、今年になって「セルバンテスを探せ」というお達しがマドリッド市から出され、年明け早々テレビや新聞を賑わせ始めました。

実はセルバンテスは、ラス・トリニタリアス修道院に埋葬されていると言われていたが、正確な埋葬場所は不明とされています。そこでセルバンテスの遺骨を探すべく今回のお達しが出たというわけです。時々こういった二の句が告げない状況が報道されると、こちらもどう反応しているかわからなくなります。

“ドン・キホーテ”はノルウェーのブック・クラブが2002年に主催した世界54カ国の著名作家100人の投票で1位に選ばれた作品で、それを世に送り出した産みの親は当然ジーザス並とはいかなくてもせめて聖ヤコブくらいの扱いを受けていてもよいんじゃないやありませんか？と茶々を入

れたくなります。少なくとも世界の現代の文豪が認めているのです。

セルバンテスと同時期に活躍し、同じく1616年に死去したイギリスの文豪シェクスピア。英語の美しさを作品を通じて世界に広めた彼の墓碑はきちんと生まれ故郷の教会内陣に建っています。その一方で、スペイン語の美しさと表現の奥深さ、幅広さを世界に広めたセルバンテスのお墓はどれなのかわからない状況で今の今まで放置されていたということの事実。(これは二人の経済力と歩んだ人生があまりに掛け離れていた

ので国の力は関係ないかもしれませんが。) ようやく国がその事実の罪深さに気が付いたのか、またはセルバンテス没後400周年を迎える2016年の看板素材欲しさなのか、真意は測りかねますが、修道院の泥の床を数週間に渡り専門家たちが掘り返し、1月末にセルバンテスのものと思わしき棺桶が発掘されました。そこから始まる一連の鑑定調査の結果、仏様の身体的特徴が文豪のそれと一致する決定がなされた際には、ドン・キホーテファンとしては文豪にふさわしい墓碑をふさわしい場所に立ててもらいたいと思わばかりです。



ラス・トリニタリアス修道院の外壁に刻まれるセルバンテスがここに眠ることを公示する石版。



土屋寛子 つちやひろこ / Hiroko Tsuchiya

マドリッドに15年在住。仕事のビザで渡西、日系企業に勤務。スペイン人の夫と4歳の娘と暮らしている。

ブログ「スペインの扉」  
 spainnotobira.com  
 どうぞお越し下さい!

スペインファンを  
 もっと増やそう!